

## 老脚に強化を迫る 初春の夢

昨年、特段の病がなかったオケラは、益々背縮重増剝膨で、既に超ガマ体型。衣類を総て買い換える破目になりました。腹中の各部品は、今のところ歳相応のようですが、時に右腕が痺れます。如何やら頸椎がこの原因らしく、これからはこれが、我が身のお守りのメインテーマになりそうです。メケラは歳の割に元気で、老夫の介護に忙しく明け暮れる日々、と言いながら、相変わらず夜鍋と昼寝を繰り返しています。改めて思い返しますと、私達二人の暮しは、これまで、今日は昨日の続き、そしてそのまま明日へと、浮き世の波間に漂うラッコの如く、その時々の流れに身を任せ、総てはなるがままの行き当たりばったり。良く言えば自然体で無理をせず、細かく見れば多少の幸不幸、僅かな起伏曲折があったとは言え、大筋では平穩無事でした。その私達はこの度、生涯2度目の東京オリンピックを、今度は自分達の足を使い、是非スタンドで観たいと、夢のような目標を定めました。順当に行けばその時、81歳と77歳の筈ですが、世に打ち続く災害や、巧妙な老人詐欺に怯えながらも、持たざる者の強み、この歳まで生きてきた実績と、微力ながら私達を常に支えて来た自前の運を頼りに、脚を鍛え、大方呆けた頭で、何とか上手くやり遂げる所存です。本年もよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年元旦

オケラ・メケラ